

○酒煮の拵方

(原料) 梨子大二箇、酒一合、酢一勺、砂糖十五匁、

皮をむきて、四五分位の厚さに輪切りに切て、四つ位に細長く切り又横に切り、四五分位の角形となし、鍋に入れ、酒を入れ(代り味淋にてもよし)火にかけ、次に酢を入れ、煮込み、とう火にて、柔かになる迄煮て、さて取上げ皿に七つ位つゝ盛て、上より、砂糖をおほひかけて出すなり、砂糖は多き方がよし、

▲女子教育の一注意

細川潤次郎氏

男子は大功は細瑾を顧みずと云へる古語の如く、少年敗徳の者も一旦悔悟して有用の人物となる者少からず、今男女の婚期に十年の差ありとする時は、男子は十年遅き此間に過を改め善に選るの餘地あれども女子は此餘地なく一度び仕出せる過ちは打消すこと能はず、殊に曖昧疑似の間にある過失の如きも女子にありては事實と假定せらるること多し、社會が女子の細行を苛酷に論ずるも亦已むを得ざるなり近年歐米の交際を摸倣するに至り、従ふて嫌疑を遠くるの方法も概ね嚴格ならざれば曖昧疑似の説も生し易き有様となれり、此際

割烹用前掛

第一高女校 教諭

岡本ちか子

割烹用の前掛にも其形色々御座います、是まで用ひました物の中で、一番着物が汚れぬかと思ひましたものを御紹介致します。

用布幅二尺四寸長さ二ヤール半(六尺)

縫ひ方

第一、後身の脊の處を細く三つ折組。

第二、前身の肩と後身の肩とを合せて縫ひ、其折

は後に返し、前の縫込にて後の縫込をくるみて

まつりつけ。

第三、袖附(袖の方を身頃より一分五厘程出して

附け、折は身の方に返し袖の縫込にて身頃の縫

込をくるみてまつりつけます)

第四、袖下と、脇縫とをついて縫ひまして、折

は後の方に返し、其縫込をくるみてまつります)

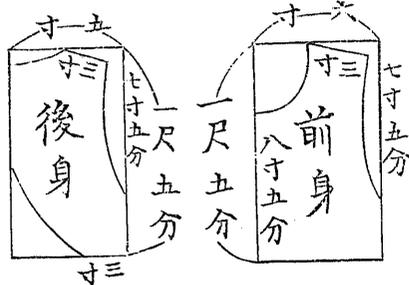
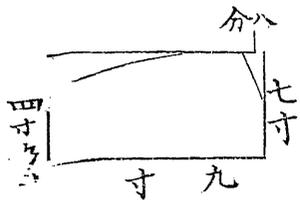
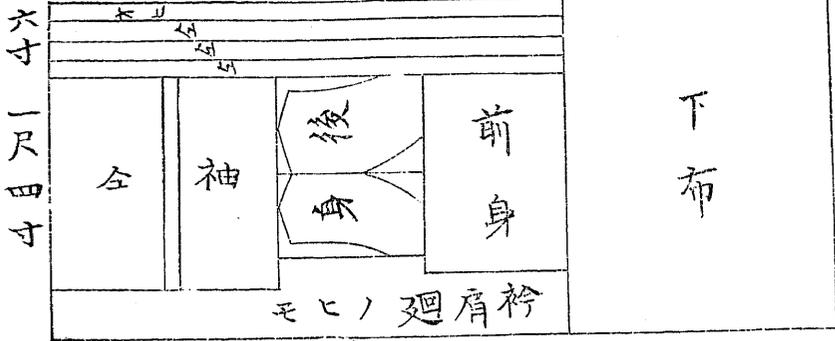
第五、袖口を細く三つ折紵。

第六、衿肩廻しに紐を付けます。

第七、下布の下の方を三分位の幅に三つ折紵にな

二尺一寸 三尺九寸

裁方ノ図



衿肩廻の紐は、一寸二分の幅にて長さ二尺五寸位入用で御座います。



し、上の方は一尺八寸位の幅に縫ひちひめてギヤダになし、表裏の帯にて狭みて縫ひます。第八、上の方即ち身頃に帯の表の方を縫ひつけ、其兩端は普通の紐を縫ふ様に縫ひて引返し、残り部分は、裏にて身頃に紵つけます。若しミシンを御使用になる御方はミシン縫ならば尙更結構で御座います

### 掃除の方法

醫學士 竹中 成憲

前世紀の終りに近き二十年に於て肺病は日本に著しき増加をなせり其原因は武藝時代に比して人民一船に體力減衰せると交通機關の發達に因り體力減ぜると共に病毒を散亂せるに因るべしと雖予は他に一大原因として室内に土足出入の洋風を思はざるべからずと信ず西風輸入してより西洋造起り之に出入する者は洋服と和服とを問はず靴を用ゆ西洋に在ては此風の古きがゆへに人々之に對する清潔法を心得居り土足とはいひながら頗る清潔な

り彼等が家に到らば美艷なる敷物のために靴のまゝ昇堂するを憚る事あるは洋行者の心肝に銘する所なるべし退て吾人の所謂西洋造を見るに多くは不潔千萬にして外國人に對しては赤面の至りなり是れ土足昇堂の風に慣れず昇堂に際し靴を掃除するの術を知らざるに因ると云はざるべからず吾人は又肺病の恐るべき事を識らず患者一回の痰中には幾億萬の微菌(肺病原因菌)のあるを思はず街路屋内の土間は勿論風呂屋の板の間に到る迄痰を吐く有様なるゆへに吾人の靴の裏には無数の肺病毒附着しあるものと思はざるべからず西洋にても此項洋婦の街路を引さ摺るの長さ婦人服を禁ずるの議ある程にして土足の恐るべきは明かなり先年の萬朝報紙上に左の事あり専門雜誌所載にあらざるを以て是れを以て直に適當なる引證となすは穩當ならざれども參考に資するの價値なきにあらず

婦人服の裾と微菌の數 英國の一雜誌は古き紙幣中には驚くべき多くの微菌を含み居れるが婦人服の裾には更に多くの微菌を含み居り或る